

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	日本語学科(昼間部1年制)	科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	文法(上級)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	160 (8) 時間(単位)
対 象 学 年	1年	学期及び曜時限	後期	教室名	502教室
担 当 教 員		実務経験と その関連資格			

《授業科目における学習内容》

将来日本での就職を見据え、選択肢に頼らず答えが導き出せるように短文作成や、既習文型との対比、接続にもポイントを置き、日本語能力試験N1合格を目指す。試験後は中文、長文を読み、意見をまとめ、それを自分の言葉に変えて分かりやすく説明する、意見を言うなど総合的な日本語力を身につけることを目標とする。読解文法では文型理解のみならず、全体や流れから読み取る力を身につける。

《成績評価の方法と基準》

1. 定期試験:70%
2. 宿題提出:20%
3. チェックテスト:10%

成績評価基準のさらなる評価について授業中に指示する。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)、『日本語能力試験N1 完全模試』(Jリサーチ)
『ドリル&ドリルN1文法(ユニコム)』(週末宿題用)
『学ぼう日本語 中級』(日本語教育開発委員会)、『学ぼう日本語 中上級』(日本語教材開発委員会)

《授業外における学習方法》

授業前に本文を一読し、わからない語彙は調べておくこと。
授業後は復習をすること、次の授業の最初に毎回チェックテストを課す。
週末にも宿題を課す。

《履修に当たっての留意点》

将来日本で就職することを目標に、選択問題だけではなく、短文作成や、既習文型との対比や接続などにもポイントを置き、運用力を重視した授業を行う。読解文法では全体の流れをつかみ、文型理解のみならず、総合力が身につけてほしい。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回 講義形式	授業を通じての到達目標	実力を知る。	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	復習
	各コマにおける授業予定	模擬試験(N4~N2)		
第2回 講義形式	授業を通じての到達目標	読解文法 場面や時点を表す表現を身につける。	『学ぼう日本語 中級』(日本語教育開発委員会)	予習、復習
	各コマにおける授業予定	「学ぼう日本語 30課」 ～に先立って、～に際して、～にあたって、～に渡って、～ことになっている。		
第3回 講義形式	授業を通じての到達目標	読解文法 場面や時点を表す表現を身につける。	『学ぼう日本語 中級』(日本語教育開発委員会)	予習、復習
	各コマにおける授業予定	「学ぼう日本語 30課」 上手な注意や連絡の聞き取り方		
第4回 講義形式	授業を通じての到達目標	1課 ことがらが説明できるようになる。 時間関係の言葉が使える。	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
	各コマにおける授業予定	復習:N2文型の復習 文型:～が早いか、～や、～や否や、～なり		
第5回 講義形式	授業を通じての到達目標	1課 ことがらが説明できるようになる。 時間関係の言葉が使える。	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
	各コマにおける授業予定	文型:文型:～そばから、～てからというもの(は)、～にあつて問題		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	2課 ことがらが説明できるようになる。 範囲の始まり・限度	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
		各コマにおける授業予定	前の課のチェックテスト 文型: ~を限りに、~をもって、~といったところだ		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	2課 ことがらが説明できるようになる。 範囲の始まり・限度	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
		各コマにおける授業予定	文型: ~ようとしている、~つつある、~つつ問題		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	3課 ことがらが説明できるようになる。 限定・非限定・付加	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
		各コマにおける授業予定	前の課のチェックテスト 文型: N2文型復習、~をおいて、~ならでは		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	3課 ことがらが説明できるようになる。 限定・非限定・付加	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
		各コマにおける授業予定	前の課のチェックテスト 文型: ~はおろか、~もさることながら問題		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	読解文法 部分否定の使い方を習得する	『学ぼう日本語中級』(日本語教育開発委員会)	予習、復習
		各コマにおける授業予定	「学ぼう日本語 32課」 ~ないことはない、~わけではない、~どころではない、~ことはない		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	読解文法 部分否定の使い方を習得する	『学ぼう日本語中級』(日本語教育開発委員会)	予習、復習
		各コマにおける授業予定	「学ぼう日本語 32課」 上手な問題の解決の仕方ができるようになる。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	4課 ことがらが説明できるようになる。 例示の文	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
		各コマにおける授業予定	文型: N2(やら、やら/というか、というか/にしても、にしても) ~なり~なり、~であれ~であれ		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	4課 ことがらが説明できるようになる。 範囲の始まりと終わり・その間の説明ができる。	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
		各コマにおける授業予定	文型: ~といい~といい、~といわず~といわず 問題 1-4課復習		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	5課 ことがらが説明できるようになる。 関連、無関係に関するを表す語の使い分けができる。	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
		各コマにおける授業予定	N3、N2: によって、に応じて、にかかわらず、もかまわず ~いかんだ		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	5課 ことがらが説明できるようになる。 関連、無関係に関するを表す語の使い分けができる。	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
		各コマにおける授業予定	文型: ~いかににかかわらず、~をものともせず(に)、~をよそに、~ならいざしらず 問題		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	日本語学科(昼間部1年制)	科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	文法(上級)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	160 (8) 時間(単位)
対 象 学 年	1年	学期及び曜時限	後期	教室名	502教室
担 当 教 員		実務経験と その関連資格			

《授業科目における学習内容》

将来日本での就職を見据え、選択肢に頼らず答えが導き出せるように短文作成や、既習文型との対比、接続にもポイントを置き、日本語能力試験N1合格を目指す。試験後は中文、長文を読み、意見をまとめ、それを自分の言葉に変えて分かりやすく説明する、意見を言うなど総合的な日本語力を身につけることを目標とする。読解文法では文型理解のみならず、全体や流れから読み取る力を身につける。

《成績評価の方法と基準》

1. 定期試験:70%
2. 宿題提出:20%
3. チェックテスト:10%

成績評価基準のさらなる評価について授業中に指示する。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)、『日本語能力試験N1 完全模試』(Jリサーチ)
『ドリル&ドリルN1文法(ユニコム)』(週末宿題用)
『学ぼう日本語 中級』(日本語教育開発委員会)、『学ぼう日本語 中上級』(日本語教材開発委員会)

《授業外における学習方法》

授業前に本文を一読し、わからない語彙は調べておくこと。
授業後は復習をすること、次の授業の最初に毎回チェックテストを課す。
週末にも宿題を課す。

《履修に当たっての留意点》

将来日本で就職することを目標に、選択問題だけではなく、短文作成や、既習文型との対比や接続などにもポイントを置き、運用力を重視した授業を行う。読解文法では全体の流れをつかみ、文型理解のみならず、総合力が身につけてほしい。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第16回	講義形式	授業を通じての到達目標 6課 ことがらが説明できるようになる。 様子を表すN1の語彙の使い分けができる	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
	各コマにおける授業予定	文型 N2(～ようにする、～気味)、～んばかりだ、～とばかり(に)、～とばかり(に)		
第17回	講義形式	授業を通じての到達目標 6課 ことがらが説明できるようになる。 様子を表すN1の語彙の使い分けができる	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
	各コマにおける授業予定	文型:～ともなく、～ともなしに、～ながらに(して)、～きらいがある 問題		
第18回	講義形式	授業を通じての到達目標 7課 ことがらが説明できるようになる。 付随行動を表す言葉が使える。	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
	各コマにおける授業予定	文型:N2:～ついでに ～がてら、～かたがた、～かたわら、 問題		
第19回	講義形式	授業を通じての到達目標 読解文法 逆説の表現が使えるようになる。	『学ぼう日本語 中級』(日本語教育開発委員会)	予習、復習
	各コマにおける授業予定	「学ぼう日本語 33課」 ～ながら、～といっても、～ものの、～からといって、～たら・～ても		
第20回	講義形式	授業を通じての到達目標 読解文法 逆説の表現が使えるようになる。	『学ぼう日本語 中級』(日本語教育開発委員会)	予習、復習
	各コマにおける授業予定	「学ぼう日本語 33課」 上手な文章が読めるようになる。		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第21回	講義形式	授業を通じての到達目標	8課 主観を含めて説明する。 逆説の言葉を使えるようになる。	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
		各コマにおける授業予定	文型:N2(～にもかかわらず、～ものの、～ながら) ～ところを、～ものを		
第22回	講義形式	授業を通じての到達目標	8課 主観を含めて説明する 逆説の言葉を使えるようになる。	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
		各コマにおける授業予定	文型:～とはいえ、～といえども、～と思いきや		
第23回	講義形式	授業を通じての到達目標	1-8課 主観を含めて説明する 復習	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
		各コマにおける授業予定	1～8課までのN1の文型と似ているN2の文型の復習		
第24回	講義形式	授業を通じての到達目標	9課 主観を含めて説明する 条件を表す言葉の使い分けができる。	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
		各コマにおける授業予定	文型:N2(～としたら、～ないことには、～ものなら) ～とあれば、～たら最後・～たが最後		
第25回	講義形式	授業を通じての到達目標	9課 主観を含めて説明する 条件を表す言葉の使い分けができる。	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
		各コマにおける授業予定	文型:～ようでは、～なしに(は)、～くらいなら 問題		
第26回	講義形式	授業を通じての到達目標	10課 主観を含めて説明する 逆説条件を表す言葉の使い分けができる。	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
		各コマにおける授業予定	文型:N2(もし～としても、どんなに～としても、たとえ～であっても) ～ようと・～ようが、～ようと～まいと・～ようが～まいが		
第27回	講義形式	授業を通じての到達目標	10課 主観を含めて説明する 逆説条件を表す言葉の使い分けができる。	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
		各コマにおける授業予定	文型:～であれ・～であろうと、～たところで、～ば～で・～なら ～で・～たら～たで		
第28回	講義形式	授業を通じての到達目標	11課 主観を含めて説明する ～に関係なく、無視して	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
		各コマにおける授業予定	文型:～ないでvs～なくて、～を問わず、～にかかわらず、		
第29回	講義形式	授業を通じての到達目標	11課 主観を含めて説明する ～に関係なく、無視して	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
		各コマにおける授業予定	文型:～もかまわず、～はともかく、～はさておき 問題		
第30回	講義形式	授業を通じての到達目標	読解文法 条件を仮定し、その結果が言える。	『学ぼう日本語 初中級』(日本語 教育開発委員 会)	予習、復習
		各コマにおける授業予定	「学ぼう日本語 34課」 ～にかけては/かけても、～ものだから、～としたら/とすれば、 ～さえ…ば		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	日本語学科(昼間部1年制)	科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	文法(上級)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	160 (8) 時間(単位)
対 象 学 年	1年	学期及び曜時限	後期	教室名	502教室
担 当 教 員		実務経験と その関連資格			

《授業科目における学習内容》

将来日本での就職を見据え、選択肢に頼らず答えが導き出せるように短文作成や、既習文型との対比、接続にもポイントを置き、日本語能力試験N1合格を目指す。試験後は中文、長文を読み、意見をまとめ、それを自分の言葉に変えて分かりやすく説明する、意見を言うなど総合的な日本語力を身につけることを目標とする。読解文法では文型理解のみならず、全体や流れから読み取る力を身につける。

《成績評価の方法と基準》

1. 定期試験:70%
2. 宿題提出:20%
3. チェックテスト:10%

成績評価基準のさらなる評価について授業中に指示する。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)、『日本語能力試験N1 完全模試』(Jリサーチ)
『ドリル&ドリルN1文法(ユニコム)』(週末宿題用)
『学ぼう日本語 中級』(日本語教育開発委員会)、『学ぼう日本語 中上級』(日本語教材開発委員会)

《授業外における学習方法》

授業前に本文を一読し、わからない語彙は調べておくこと。
授業後は復習をすること、次の授業の最初に毎回チェックテストを課す。
週末にも宿題を課す。

《履修に当たっての留意点》

将来日本で就職することを目標に、選択問題だけではなく、短文作成や、既習文型との対比や接続などにもポイントを置き、運用力を重視した授業を行う。読解文法では全体の流れをつかみ、文型理解のみならず、総合力が身につけてほしい。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第31回 講義形式	授業を通じての到達目標	読解文法 上手な説明ができるようになる。	『学ぼう日本語 中級』(日本語教育開発委員会)	予習、復習
	各コマにおける授業予定	『学ぼう日本語 34課』 上手に説明ができるようになる。		
第32回 講義形式	授業を通じての到達目標	12課 主観を含めて説明できるようになる 原因・理由のN2,N1の言葉が使えるようになる。	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
	各コマにおける授業予定	文型:N2(～ものだから、～からには、～ばかりに) ～ばかりの復習 ～ばかり		
第33回 講義形式	授業を通じての到達目標	12課 主観を含めて説明できるようになる 原因・理由のN2,N1の言葉が使えるようになる。	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
	各コマにおける授業予定	文型:～とあって、～ではあるまいし、～手前、～ゆえ(に)		
第34回 講義形式	授業を通じての到達目標	1課-12課の復習 主観を含めて説明できるようになる	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
	各コマにおける授業予定	文型:N2, N1の文法復習		
第35回 講義形式	授業を通じての到達目標	13課 主観を含めて説明できるようになる 可能、不可能、禁止についての言葉が使えるようになる。	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
	各コマにおける授業予定	文型: N2(～得る、～ようがない、～な) ～にかたくない、～に～ない・～(よ)うにも～ない		

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第36回	講義形式	授業を通じての到達目標 13課 主観を含めて説明できるようになる 可能、不可能、禁止についての言葉が使えるようになる。	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
	各コマにおける授業予定	文型: ~て(は)いられない、~べくもない、~べからず・~べからざる、~まじき		
第37回	講義形式	授業を通じての到達目標 14課 主観を含めて説明できるようになる 話題、評価の基準の文型が使える。	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
	各コマにおける授業予定	文型:N2復習(~といたら、~にしては、~にあつて) ~ときたら、~ともなると・~ともなれば		
第38回	講義形式	授業を通じての到達目標 14課 主観を含めて説明できるようになる 原因・理由のN2,N1の言葉が使えるようになる。	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
	各コマにおける授業予定	文型:~ともあろう、~たるもの(は)、~なりに問題		
第39回	講義形式	授業を通じての到達目標 読解文法 否定はできないという気持ちが表せるようになる。	『学ぼう日本語中級』(日本語教育開発委員会)	予習、復習
	各コマにおける授業予定	「学ぼう日本語中級 35課」 ~かのような、~ことだから、~かねない、~得るなど		
第40回	講義形式	授業を通じての到達目標 読解文法 上手なアドバイスの仕方ができるようになる。	『学ぼう日本語中級』(日本語教育開発委員会)	予習、復習
	各コマにおける授業予定	「学ぼう日本語中級 35課」 上手なアドバイスの仕方		
第41回	実習形式	授業を通じての到達目標 15課 主観を含めて説明できるようになる 比較、対象を表す文型	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
	各コマにおける授業予定	文型:N2復習(~に対して、~というより) ~にひきかえ、~にもまして、~ないまでも		
第42回	講義形式	授業を通じての到達目標 16課 主観を含めて説明できるようになる 結末、最終の状態を表す文	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
	各コマにおける授業予定	文型:N2復習(~すえ、~ずじまい、~きり) ~至って・~至っても、~に至っては		
第43回	講義形式	授業を通じての到達目標 16課 主観を含めて説明できるようになる 結末、最終の状態を表す文	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
	各コマにおける授業予定	文型:~始末だ、~ばなっただ 問題 1-16課の復習		
第44回	講義形式	授業を通じての到達目標 17課 主観を含めて説明できるようになる 強調を表す文	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
	各コマにおける授業予定	文型:N2復習(~こそ、~として、~さえ) ~たりとも…ない、~すら、		
第45回	講義形式	授業を通じての到達目標 17課 主観を含めて説明できるようになる 強調を表す文	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
	各コマにおける授業予定	文型:~だに、~にして、~あつての、~からある・~からする・ ~からの 問題		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	日本語学科(昼間部1年制)	科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	文法(上級)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	160 (8) 時間(単位)
対 象 学 年	1年	学期及び曜時限	後期	教室名	502教室
担 当 教 員		実務経験と その関連資格			

《授業科目における学習内容》

将来日本での就職を見据え、選択肢に頼らず答えが導き出せるように短文作成や、既習文型との対比、接続にもポイントを置き、日本語能力試験N1合格を目指す。試験後は中文、長文を読み、意見をまとめ、それを自分の言葉に変えて分かりやすく説明する、意見を言うなど総合的な日本語力を身につけることを目標とする。読解文法では文型理解のみならず、全体や流れから読み取る力を身につける。

《成績評価の方法と基準》

1. 定期試験:70%
2. 宿題提出:20%
3. チェックテスト:10%

成績評価基準のさらなる評価について授業中に指示する。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)、『日本語能力試験N1 完全模試』(Jリサーチ)
『ドリル&ドリルN1文法(ユニコム)』(週末宿題用)
『学ぼう日本語 中級』(日本語教育開発委員会)、『学ぼう日本語 中上級』(日本語教材開発委員会)

《授業外における学習方法》

授業前に本文を一読し、わからない語彙は調べておくこと。
授業後は復習をすること、次の授業の最初に毎回チェックテストを課す。
週末にも宿題を課す。

《履修に当たっての留意点》

将来日本で就職することを目標に、選択問題だけではなく、短文作成や、既習文型との対比や接続などにもポイントを置き、運用力を重視した授業を行う。読解文法では全体の流れをつかみ、文型理解のみならず、総合力が身につけてほしい。

授業の方法	内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第46回 講義形式	授業を通じての到達目標 1課-17課の復習 主観を含めて説明できるようになる	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
	各コマにおける授業予定 文型:N2、N1の文法復習 13-17課を重点的に		
第47回 実習形式	授業を通じての到達目標 読解文法 忠告や注意ができるようになる。	『学ぼう日本語中級』(日本語教育開発委員会)	予習、復習
	各コマにおける授業予定 「学ぼう日本語中級 36課」 ～ものだ、～べきだ/～べきではない、～ことだ、～というものだ、～てはならない		
第48回 講義形式	授業を通じての到達目標 読解文法 忠告や注意ができるようになる。	『学ぼう日本語中級』(日本語教育開発委員会)	予習、復習
	各コマにおける授業予定 「学ぼう日本語中級 36課」 上手な説得に仕方ができるようになる。		
第49回 講義形式	授業を通じての到達目標 18課 主観述べる文型が理解できる。 主張、断定を表す文を表す文型が理解できる。	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
	各コマにおける授業予定 文型:N2復習(～べき、～というものだ、～にはほかならない) ～までもない、～までだ・～までのことだ		
第50回 講義形式	授業を通じての到達目標 18課 主観述べる文型が理解できる。 主張、断定を表す文を表す文型が理解できる。	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
	各コマにおける授業予定 文型:～ばそれまでだ、～には当たらない、～でなくてなんだろう(か) 問題		

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第51回	講義形式	授業を通じての到達目標 19課 主観述べる文型が理解できる。 評価、感想を表す文を表す文型が理解できる。	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
	各コマにおける授業予定	文型:N2復習(～にほかならない、～に堪える/～に堪えない)		
第52回	講義形式	授業を通じての到達目標 19課 主観述べる文型が理解できる。 評価、感想を表す文を表す文型が理解できる。	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
	各コマにおける授業予定	文型:～といったらない、～かぎりだ、～に極まる・～極まりない、～とは 問題		
第53回	講義形式	授業を通じての到達目標 20課 主観述べる文型が理解できる。 心情、強制的思いを表す文を表す文型が理解できる。	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
	各コマにおける授業予定	文型:N2復習(～でならない、～ずにはいられない、～ざるを得ない)、～てやまない、～に堪えない		
第54回	講義形式	授業を通じての到達目標 20課 主観述べる文型が理解できる。 心情・強制的思いを表す文を表す文型が理解できる。	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
	各コマにおける授業予定	文型:～ないではすまない・～ずにはすまない、～ないではおかない・～ずにはおかない、～を禁じ得ない、～を余儀なくされる・～を余儀なくさせる 問題		
第55回	講義形式	授業を通じての到達目標 日本語能力試験対策(1) A動詞の意味に着目し、もとの言葉の意味から類推することができる。	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
	各コマにおける授業予定	「相まつ」「押す」「かこつける」「兼ねる」など		
第56回	講義形式	授業を通じての到達目標 日本語能力試験対策(2) B動詞の意味に着目し、もとの言葉の意味から類推することができる。	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
	各コマにおける授業予定	「至る」「かなう」「忍ぶ」「恥じる」「はばかる」など		
第57回	講義形式	授業を通じての到達目標 日本語能力試験対策(3) C古い言葉、もとの言葉の意味から類推することができる。	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
	各コマにおける授業予定	「～ず」「～べし」「～まい」「～ごとし」など		
第58回	講義形式	授業を通じての到達目標 日本語能力試験対策(4) D形式名詞「もの」、「こと」、「ところ」を使った文法がわかる。	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
	各コマにおける授業予定	「～ないものでもない」「～ものと思う」、「～をいいことに」、「～したところで」		
第59回	講義形式	授業を通じての到達目標 日本語能力試験対策(5) E 同じ言葉、対の言葉、同類の言葉を重ねて使う文法がわかる。	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
	各コマにおける授業予定	「～つ…つ」、「～ては、…ては」、「～かれ…かれ」など		
第60回	講義形式	授業を通じての到達目標 日本語能力試験対策(6) F 助詞、複合助詞を使った文型が理解できる。	『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)	予習、復習
	各コマにおける授業予定	「～にして」、「～とて」、「～より」など		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	日本語学科(昼間部1年制)	科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	文法(上級)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	160 (8) 時間(単位)
対 象 学 年	1年	学期及び曜時限	後期	教室名	502教室
担 当 教 員		実務経験と その関連資格			

《授業科目における学習内容》

将来日本での就職を見据え、選択肢に頼らず答えが導き出せるように短文作成や、既習文型との対比、接続にもポイントを置き、日本語能力試験N1合格を目指す。試験後は中文、長文を読み、意見をまとめ、それを自分の言葉に変えて分かりやすく説明する、意見を言うなど総合的な日本語力を身につけることを目標とする。読解文法では文型理解のみならず、全体や流れから読み取る力を身につける。

《成績評価の方法と基準》

1. 定期試験:70%
2. 宿題提出:20%
3. チェックテスト:10%

成績評価基準のさらなる評価について授業中に指示する。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)、『日本語能力試験N1 完全模試』(Jリサーチ)
『ドリル&ドリルN1文法(ユニコム)』(週末宿題用)
『学ぼう日本語 中級』(日本語教育開発委員会)、『学ぼう日本語 中上級』(日本語教材開発委員会)

《授業外における学習方法》

授業前に本文を一読し、わからない語彙は調べておくこと。
授業後は復習をすること、次の授業の最初に毎回チェックテストを課す。
週末にも宿題を課す。

《履修に当たっての留意点》

将来日本で就職することを目標に、選択問題だけではなく、短文作成や、既習文型との対比や接続などにもポイントを置き、運用力を重視した授業を行う。読解文法では全体の流れをつかみ、文型理解のみならず、総合力が身につけてほしい。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第61回	講義形式	授業を通じての到達目標 日本語能力試験対策(7) G 文を作る時に制約がある文型を身につける。	「新完全マスターN1」スリーエーネットワーク	予習、復習
	各コマにおける授業予定	・事実か、気持ちが入っているか。 ・自分か他者か。 ・プラスイメージか、マイナスイメージか。		
第62回	講義形式	授業を通じての到達目標 日本語能力試験対策(8)	「新完全マスターN1」スリーエーネットワーク	予習、復習
	各コマにおける授業予定	実践問題		
第63回	講義形式	授業を通じての到達目標 日本語能力試験対策(9)	「完全模試N1」Jリサーチ	予習、復習
	各コマにおける授業予定	実践問題		
第64回	講義形式	授業を通じての到達目標 日本語能力試験対策(10)	「完全模試N1」Jリサーチ	予習、復習
	各コマにおける授業予定	実践問題		
第65回	講義形式	授業を通じての到達目標 日本語能力試験対策(11)	「完全模試N1」Jリサーチ	予習、復習
	各コマにおける授業予定	実践問題		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第66回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験対策(12)	「完全模試N1」Jリサーチ	予習、復習
		各コマにおける授業予定	実践問題		
第67回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験対策(13)	「完全模試N1」Jリサーチ	予習、復習
		各コマにおける授業予定	実践問題		
第68回	講義形式	授業を通じての到達目標	読解文法 N1文型、身体、医療用語を理解できるようになる。	『学ぼう日本語 中上級』専門教育出版	予習、復習
		各コマにおける授業予定	「学ぼう日本語 中上級」 第1課 健康(1) 「～ようにも・・・ない」「～あげくに」「～あつての」「～ずくめ」		
第69回	講義形式	授業を通じての到達目標	読解文法 N1文型、身体、医療用語を理解できるようになる。	『学ぼう日本語 中上級』専門教育出版	予習、復習
		各コマにおける授業予定	「学ぼう日本語 中上級」 第1課 健康(2) アレルギー、花粉症、平均寿命、健康法のテーマを読み、まとめ、意見を言えるようになる。		
第70回	講義形式	授業を通じての到達目標	読解文法 N1文型、身体、医療用語を理解できるようになる。	『学ぼう日本語 中上級』専門教育出版	予習、復習
		各コマにおける授業予定	「学ぼう日本語 中上級」 第1課 健康(3) 本文理解とまとめ		
第71回	実習形式	授業を通じての到達目標	読解文法 N1文型、身体、医療用語を理解できるようになる。	『学ぼう日本語 中上級』専門教育出版	予習、復習
		各コマにおける授業予定	「学ぼう日本語 中上級」 第1課 健康(4) グループで発表		
第72回	講義形式	授業を通じての到達目標	読解文法 N1文型、高齢化社会の現状を理解する。	『学ぼう日本語 中上級』専門教育出版	予習、復習
		各コマにおける授業予定	「学ぼう日本語 中上級」 第2課 高齢化社会(1) 「～からというもの」「～るまでもない」「～向けだ・向きだ」「～とはいえ」		
第73回	講義形式	授業を通じての到達目標	読解文法 N1文型、高齢化社会の現状を理解する。	『学ぼう日本語 中上級』専門教育出版	予習、復習
		各コマにおける授業予定	「学ぼう日本語 中上級」 第2課 高齢化社会(2) 本文理解とまとめ		
第74回	講義形式	授業を通じての到達目標	読解文法 N1文型、高齢化社会の現状を理解する。	『学ぼう日本語 中上級』専門教育出版	予習、復習
		各コマにおける授業予定	「学ぼう日本語 中上級」 第2課 高齢化社会(3) グループに分かれディスカッションのための準備		
第75回	講義形式	授業を通じての到達目標	読解文法 N1文型、高齢化社会の現状を理解する。	『学ぼう日本語 中上級』専門教育出版	予習、復習
		各コマにおける授業予定	「学ぼう日本語 中上級」 第2課 高齢化社会(4) 発表		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	日本語学科(昼間部1年制)	科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	文法(上級)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	160 (8) 時間(単位)
対 象 学 年	1年	学期及び曜時限	後期	教室名	502教室
担 当 教 員		実務経験と その関連資格			

《授業科目における学習内容》

将来日本での就職を見据え、選択肢に頼らず答えが導き出せるように短文作成や、既習文型との対比、接続にもポイントを置き、日本語能力試験N1合格を目指す。試験後は中文、長文を読み、意見をまとめ、それを自分の言葉に変えて分かりやすく説明する、意見を言うなど総合的な日本語力を身につけることを目標とする。読解文法では文型理解のみならず、全体や流れから読み取る力を身につける。

《成績評価の方法と基準》

1. 定期試験:70%
2. 宿題提出:20%
3. チェックテスト:10%

成績評価基準のさらなる評価について授業中に指示する。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)、『日本語能力試験N1 完全模試』(Jリサーチ)
『ドリル&ドリルN1文法(ユニコム)』(週末宿題用)
『学ぼう日本語 中級』(日本語教育開発委員会)、『学ぼう日本語 中上級』(日本語教材開発委員会)

《授業外における学習方法》

授業前に本文を一読し、わからない語彙は調べておくこと。
授業後は復習をすること、次の授業の最初に毎回チェックテストを課す。
週末にも宿題を課す。

《履修に当たっての留意点》

将来日本で就職することを目標に、選択問題だけではなく、短文作成や、既習文型との対比や接続などにもポイントを置き、運用力を重視した授業を行う。読解文法では全体の流れをつかみ、文型理解のみならず、総合力が身につけてほしい。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第76回 講義形式	授業を通じての到達目標	読解文法 N1文型、日本的な経営、働き方について理解する。	『学ぼう日本語 中上級』専門教育出版	予習、復習
	各コマにおける授業予定	「学ぼう日本語 中上級」 8課 雇用・労働(1) N1文型		
第77回 講義形式	授業を通じての到達目標	読解文法のテーマを読み、まとめ、意見を言えるようになる。	『学ぼう日本語 中上級』専門教育出版	予習、復習
	各コマにおける授業予定	「学ぼう日本語 中上級」 8課 雇用・労働(2) グループに分かれて調べる。		
第78回 講義形式	授業を通じての到達目標	読解文法 N1文型、日本的な経営、働き方について理解する。	『学ぼう日本語 中上級』専門教育出版	予習、復習
	各コマにおける授業予定	「学ぼう日本語 中上級」 8課 雇用・労働(3) 働き方について調べて発表準備。		
第79回 講義形式	授業を通じての到達目標	読解文法のテーマを読み、まとめ、意見を言えるようになる。	『学ぼう日本語 中上級』専門教育出版	予習、復習
	各コマにおける授業予定	「学ぼう日本語 中上級」 8課 雇用・労働(4) 発表		
第80回 講義形式	授業を通じての到達目標	読解文法 生教材(新聞)の記事を読む	生教材 「新聞」	予習、復習
	各コマにおける授業予定	働き方、高齢化社会、健康・医療に関する分野		